

2019年12月24日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ス マ レ ジ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 山 本 博 士
(コード番号：4431 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 部 長 田 川 良 行
TEL. 06-7777-2405

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時	2019年12月23日 13:00～14:00
開催方法	対面による実開催
開催場所	大和コンファレンスホールB グラントウキョウノースタワー18F（東京都千代田区丸の内1-9-1）
説明会資料名	第15期第2四半期決算説明資料

【添付資料】

1. 決算説明会において使用した資料

以 上

スマレジ

**第15期第2四半期
決算説明資料
FY2020 2Q**

2019.5.1～2019.10.31

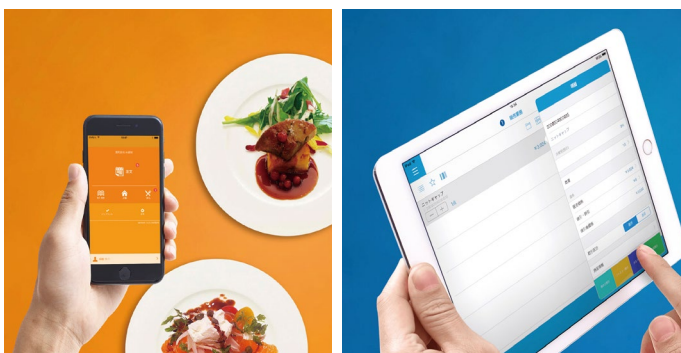
Presentation Material

株式会社スマレジ 証券コード：4431

P3	事業の説明
P6	2020年4月期2Q 決算概要
P18	事業の状況
P28	2020年4月期 業績の見通し
P32	今後の展望

事業の説明

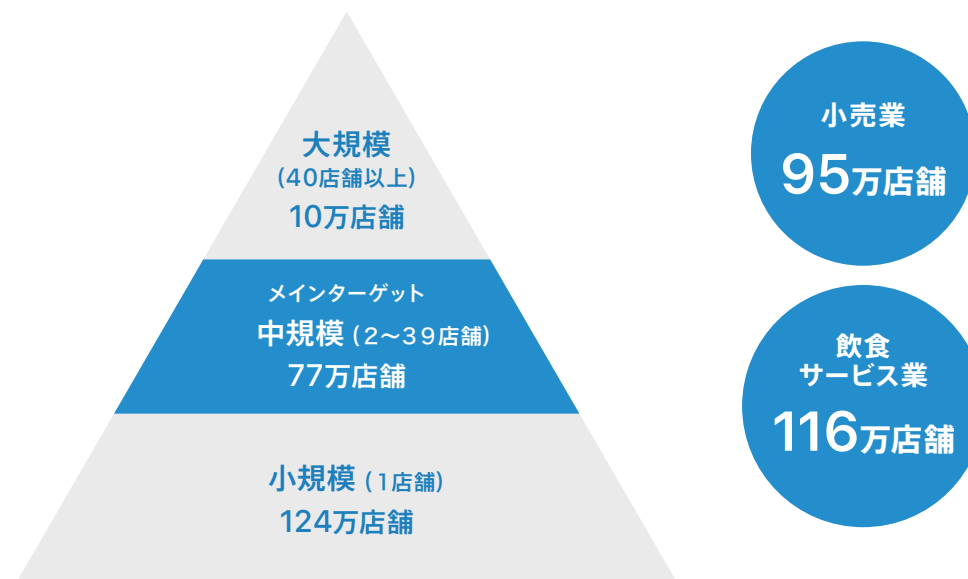
ABOUT SMAREGI



高機能クラウド型 POS レジ

スマレジは、売上分析や高度な在庫管理など、小売業や飲食・サービス業の店舗運営の効率化を実現する従来型 POS レジシステムの枠を超えた、クラウドベースの新しい POS レジシステムです。

次バージョンのスマレジ 4.0 では、スマレジの販売データ (POS データ) を中心としたプラットフォーム展開を行います。

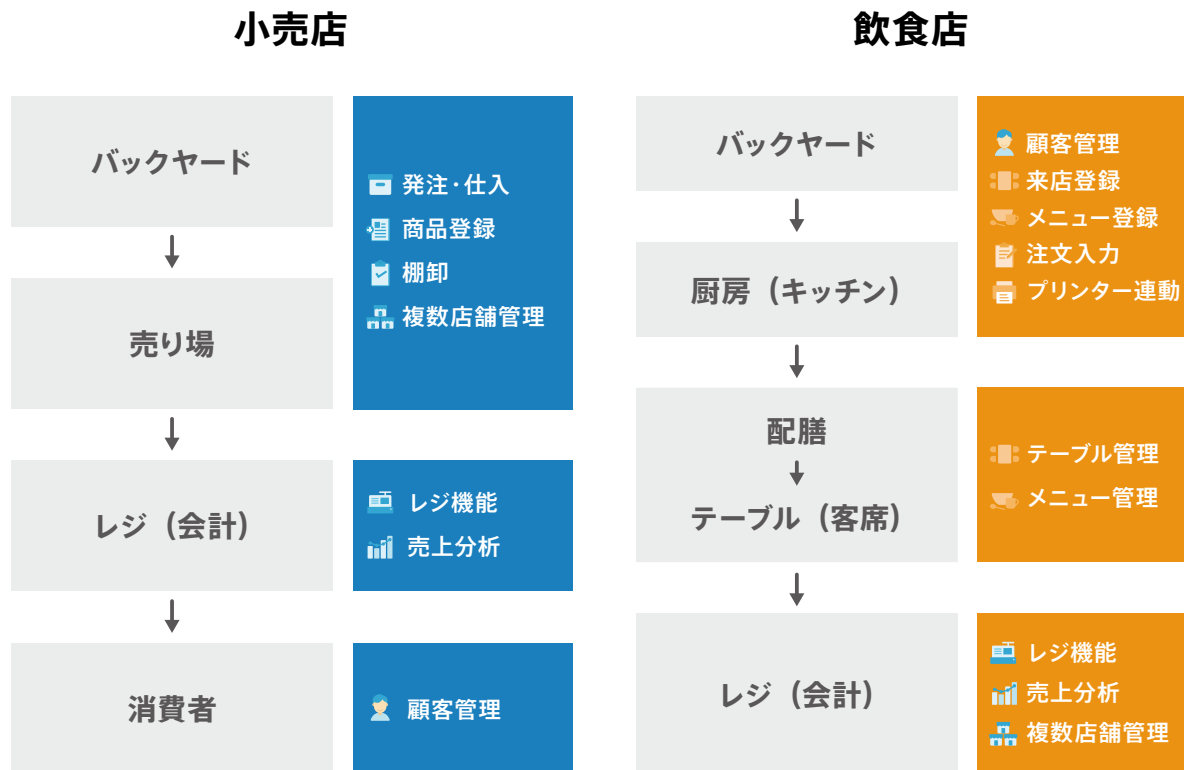


経済産業省・総務省「平成28年経済センサス」の調査結果を基に当社作成。企業の従業者数別データを基に1店舗あたりの従業者数を7.9人として従業者別の店舗数を推計しています。(小売業の1店舗あたりの従業者数: 7.9人)

※コンビニエンスストア約5万店舗を省いています。

スマレジの機能

小売業や飲食・サービス業の業務に必要な機能を提供し、業務効率の改善に貢献
スマレジの活用による業務効率化を通じて、働きやすい社会の実現を目指します



1店舗から600店舗以上を運営する事業者まで幅広いお客様にご利用いただいております。

2020年4月期2Q 決算概要

FY2020 2019.5~2019.10

- 消費税増税に伴う軽減税率への対応による駆け込み需要の影響で、**新規契約獲得件数が増加**
- 売上高は、前期比**208.6%**の18億2千5百万円と大きく成長し、**業績見通し109.3%で着地**
- 営業利益は、前期比**299.1%**の5億2千7百万円と大きく成長し、**業績見通し126.1%で着地**
- 6期連続増収と4期連続増益に向け、業績は好調
- 上場による認知や信頼性の向上により、**大型案件の受注も増加**

業績ハイライト

2020年4月期2Q 決算概要

8

2020年4月期2Qの売上高計画1,669百万円に対し、実績は1,825百万円と計画達成率109.3%
営業利益は、計画418百万円に対し、実績527百万円と計画達成率126.1%で着地

(百万円)	2019年4月期 2Q 実績 (2018年5-10月)	2020年4月期 2Q 実績 (2019年5-10月)	前年同期比 YoY	2020年4月期 2Q 計画 (2019年5-10月)	2020年4月期 2Q 達成率 (2019年5-10月)
売上高	875	1,825	208.6%	1,669	109.3%
営業利益	176	527	299.1%	418	126.1%
経常利益	176	527	299.7%	418	126.1%
四半期純利益	124	363	292.8%	295	122.8%

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

※2019.9.6付けで2020年4月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正を開示いたしました。

貸借対照表

2020年4月期2Q 決算概要

9

(百万円)	2020年4月期 2Q (2019年5-10月)	2019年4月期 2Q (2018年5-10月)	前年同期比 YoY	2020年4月期 1Q (2019年5-7月)	前四半期比 QoQ
流動資産	3,332	746	446.5%	3,061	108.9%
うち現預金	2,983	605	492.4%	2,747	108.6%
固定資産	354	322	110.0%	328	107.8%
資産合計	3,687	1,068	345.0%	3,389	108.8%
流動負債	500	267	187.2%	422	118.5%
固定負債	49	129	37.9%	49	100.0%
負債合計	549	396	138.5%	471	116.6%
純資産合計	3,137	671	467.0%	2,918	105.0%
負債・純資産合計	3,687	1,068	338.1%	3,389	106.6%

損益計算書 (累計期間)

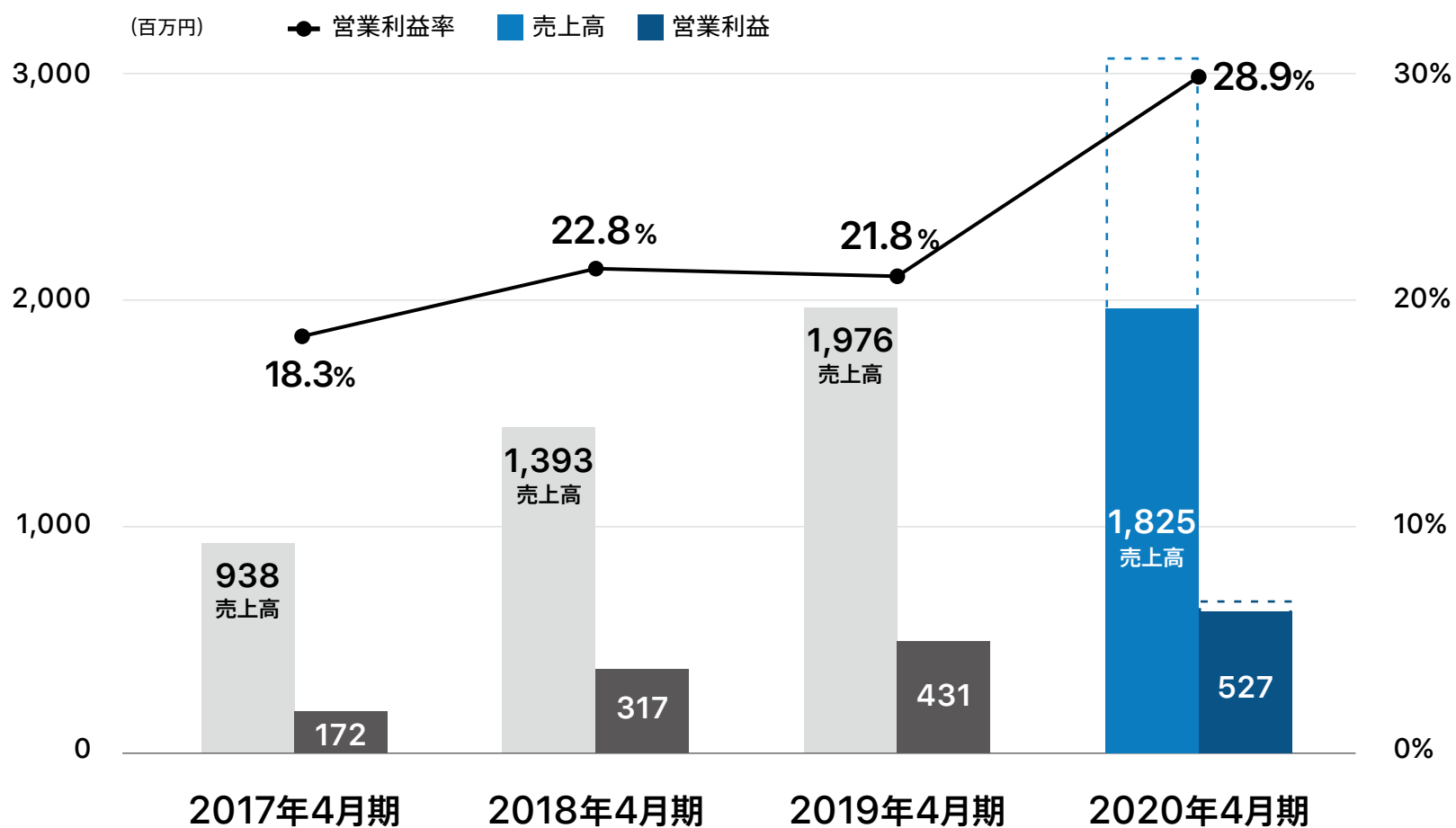
2020年4月期2Q 決算概要

10

(百万円)	2020年4月期 2Q (2019年5-10月)	構成比	2019年4月期 2Q (2018年5-10月)	前年同期比 YoY
売上高	1,825	100.0%	875	208.6%
売上原価	827	45.3%	366	226.0%
売上総利益	998	54.7%	509	196.1%
販売費及び 一般管理費	470	25.8%	332	141.4%
営業利益	527	28.9%	176	299.1%
経常利益	527	28.9%	176	299.7%
四半期純利益	363	19.9%	124	292.8%

売上高・営業利益・営業利益率の推移

2020年4月期計画に対して、2Q時点の売上高進捗率は59.2%、営業利益進捗率は82.1%
下期(3Q、4Q)は、スマレジ4.0の開発や広告費用への資金投資を計画



四半期 損益計算書

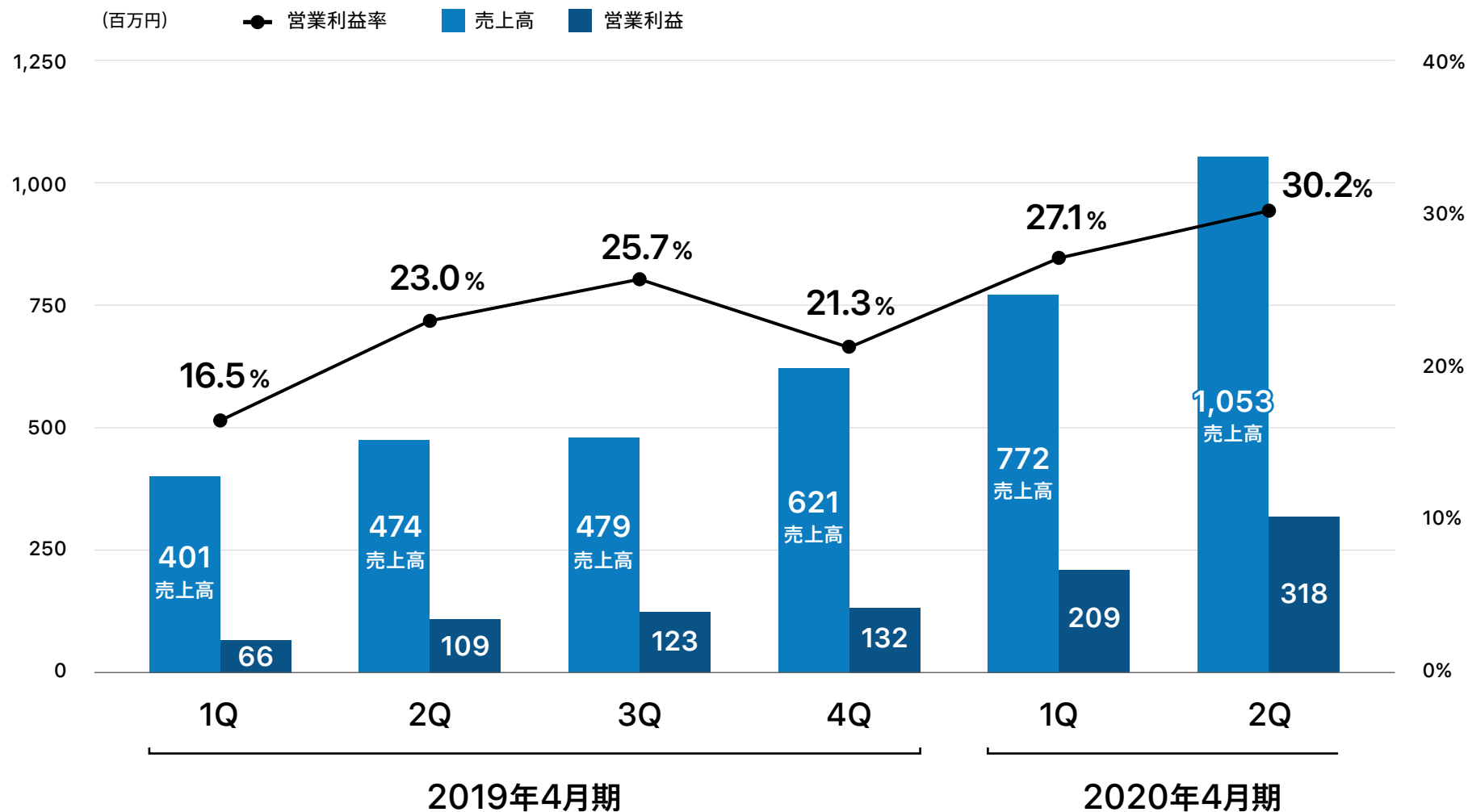
2020年4月期2Q 決算概要

12

(百万円)	2019年4月期 (2018年5月-2019年4月)				2020年4月期 (2019年5-10月)		前四半期比 QoQ
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	401	474	479	621	772	1,053	136.4%
売上原価	164	201	190	269	343	483	140.6%
売上総利益	236	272	289	351	428	569	133.1%
販売費及び 一般管理費	169	163	166	219	219	251	114.8%
営業利益	66	109	123	132	209	318	152.1%
経常利益	66	109	115	117	209	318	152.2%
四半期純利益	48	76	79	89	144	219	151.9%

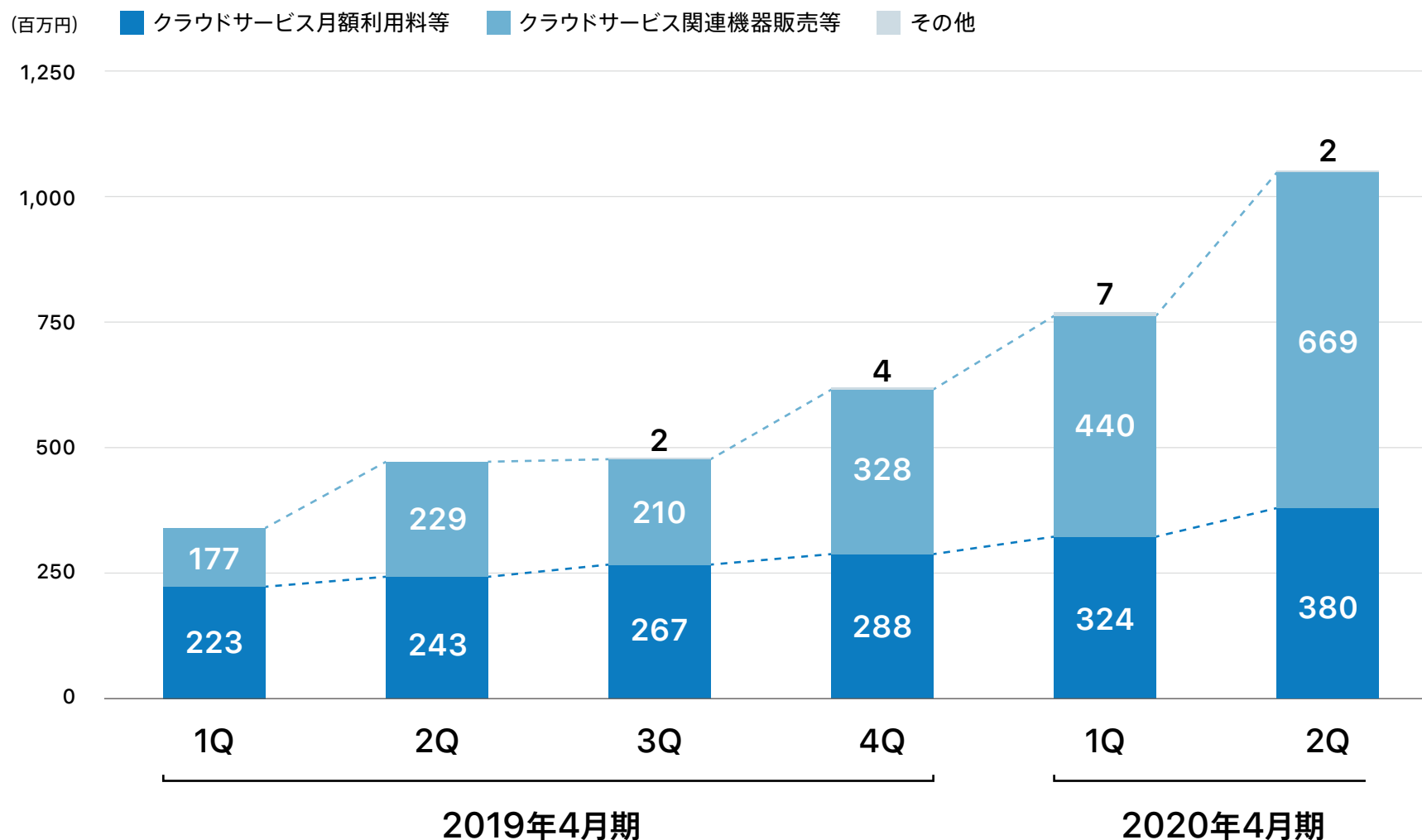
売上高・営業利益・営業利益率の四半期推移

軽減税率特需による売上高の拡大により、営業利益率が30.2%と過去最高



売上高内訳の推移

消費税増税に伴う軽減税率への対応による駆け込み需要の影響により、関連機器販売が増加
サブスクリプション型ストック売上となる月額利用料にも好影響

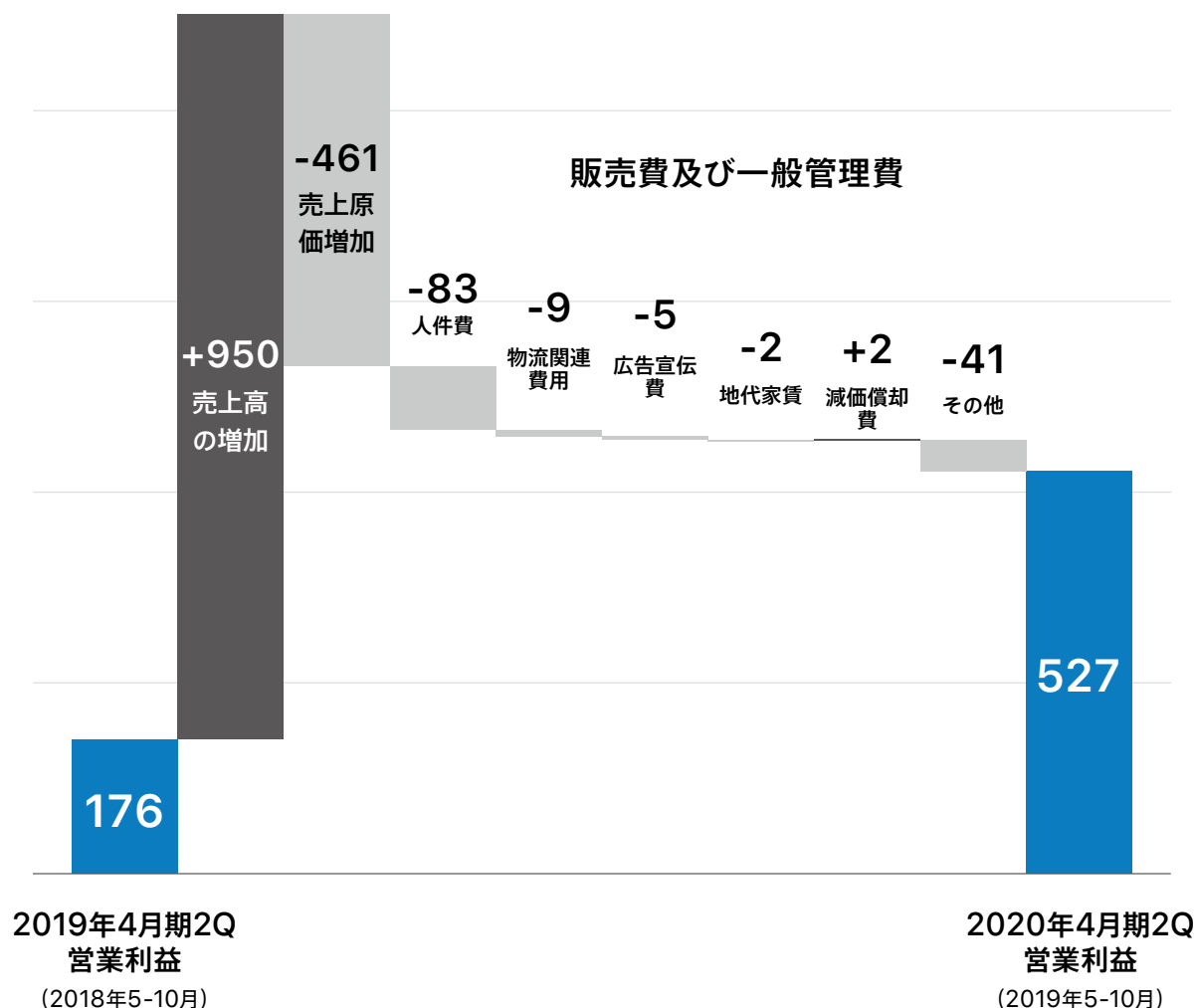


営業利益の増減分析 (対前年同期比)

2020年4月期2Q 決算概要

15

(百万円)



売上高の増加

- 有料契約の増加 (有料店舗率が向上)
- 解約率の低さによるストック売上の増加
- 軽減税率によるレジ入れ替え需要の増加

売上原価の増加

- 売上構成比の変化(関連機器販売の増加)に伴う機器仕入高の増加
- 売上高増加に伴うサーバー費用の増加
- 人員増加による人件費の増加

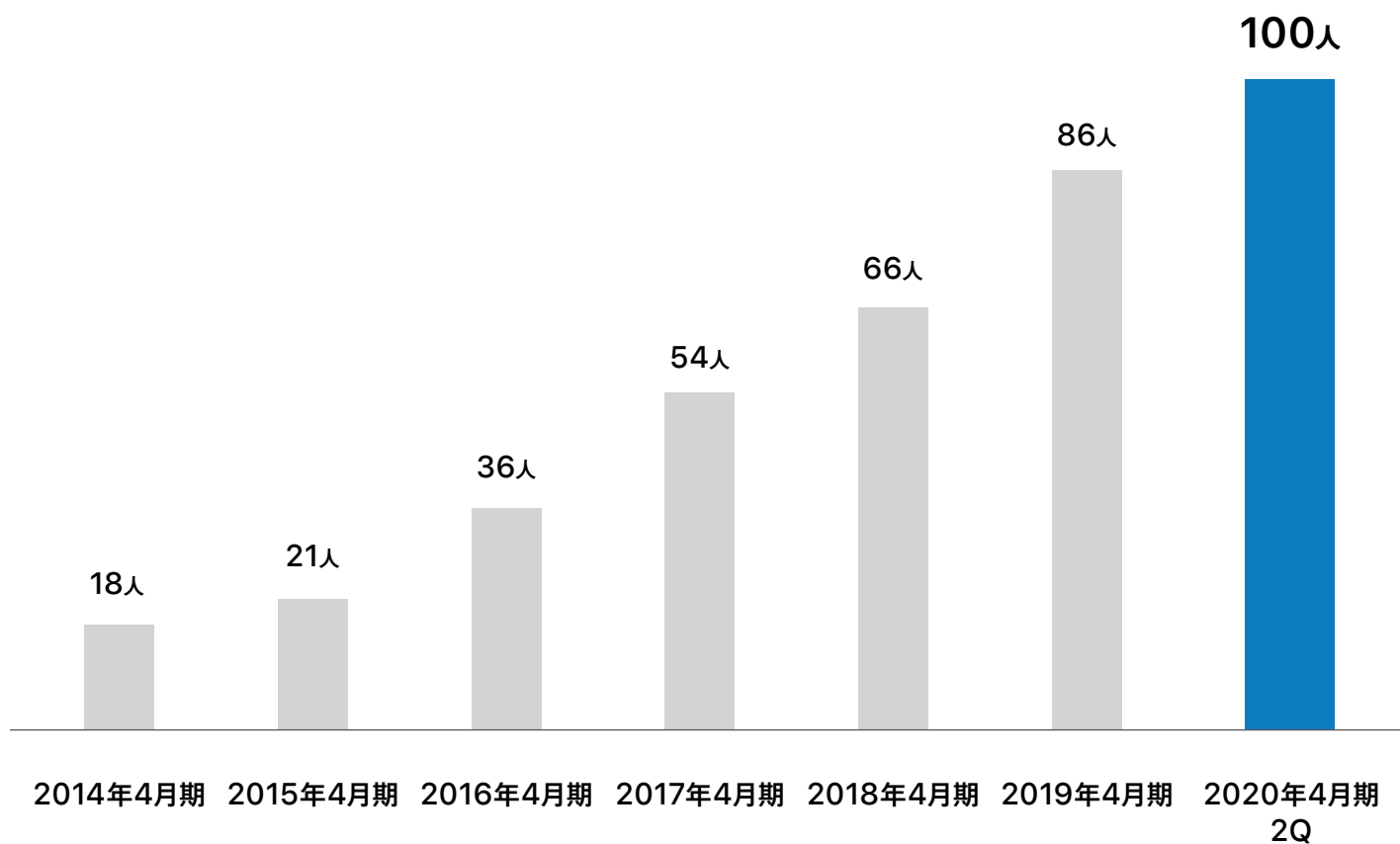
販売費及び一般管理費の増加

- 役員、従業員の増加に伴う人件費及び移動交通費の増加
- 大阪本社の移転及びショールームの増設等による家賃の増加
- 売上増加に伴う物流関連費用の増加

社員数の推移

幅広い年齢層を新規採用→平均年齢32.6歳

採用計画は順調、今後もこのペースで新規採用を継続→平均勤続年数2年5ヶ月



事業の状況

BUSINESS SUMMARY

2020年4月期2Qのトピックス



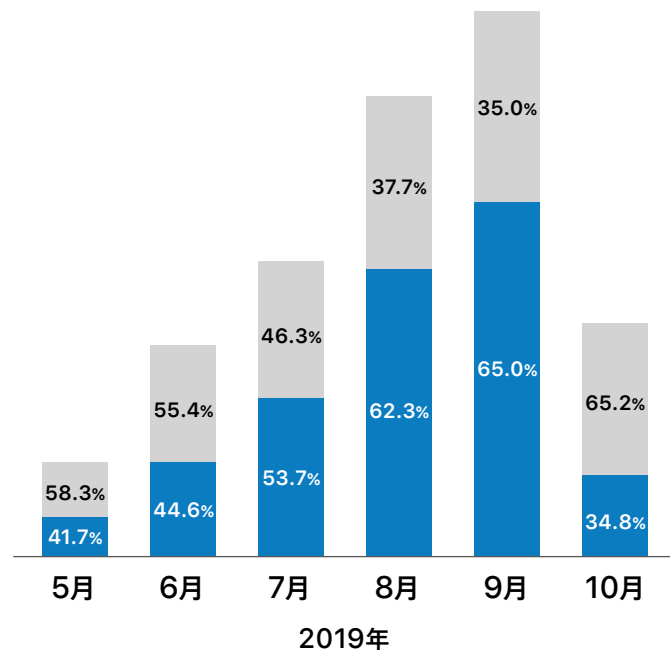
- 2019.10
 - 消費税増税、消費税軽減税率制度が開始
 - 決済機能の強化 (下記ブランドを追加)
PayPay au-PAY ゆうちょPay Pay おてがるPay
 - エンジニア向けイベントSmaregi Tech Talkを開催
- 2019.9
 - 軽減税率対策セミナーを開催
- 2019.8
 - 累積取扱金額が2兆円を突破
 - 100店舗超と600店舗超の大型導入
 - NTT東日本に次いで、NTT西日本でのスマレジ取り扱いを開始

トピックス - 軽減税率制度による影響のまとめ1

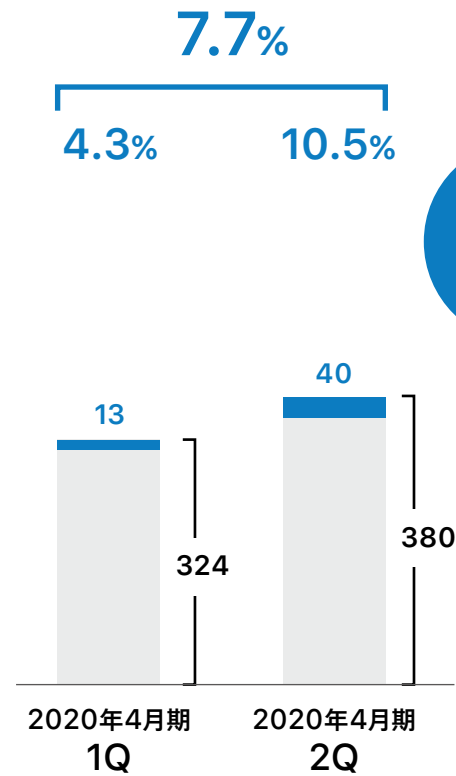
2019年10月、消費増税に伴う軽減税率制度が開始。8、9月の軽減税率対策補助金の申請が激増。特需が2020年4月期2Qの業績に与えた影響は、24.0%と推計

軽減税率に関する商談数の比率

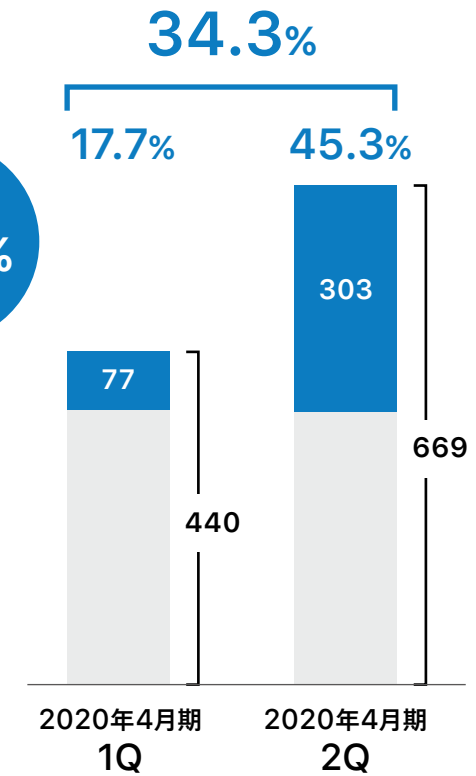
- 軽減税率に関連しない商談
- 軽減税率に関連する商談



クラウドサービス月額利用料等 (百万円)



クラウドサービス関連機器販売等 (百万円)

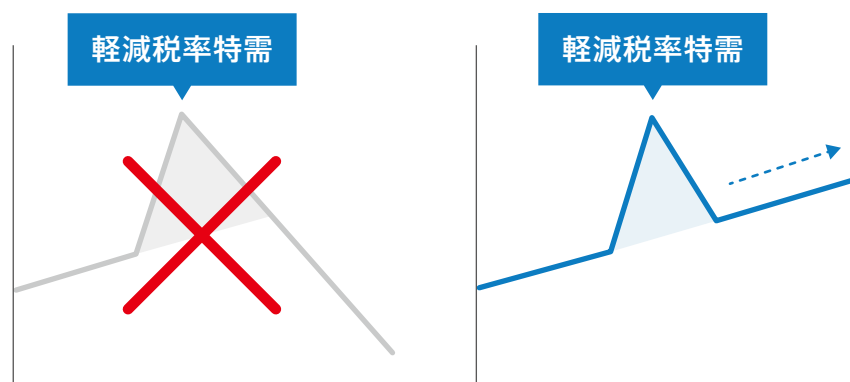


24%

補助金申請の意思表示をした顧客が集計対象となります。

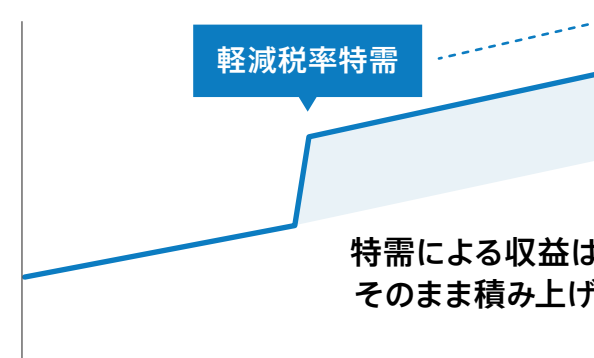
クラウドサービス関連機器販売等売上

異常な特需期より低下はするものの、需要の先食い等は特になく、特需前の水準となり従来の成長曲線に戻ると予想。



クラウドサービス月額利用料等売上

特需期の収益増がそのまま積み上がる結果となった。今後伸び率は特需前水準に戻るものの下がることはない。

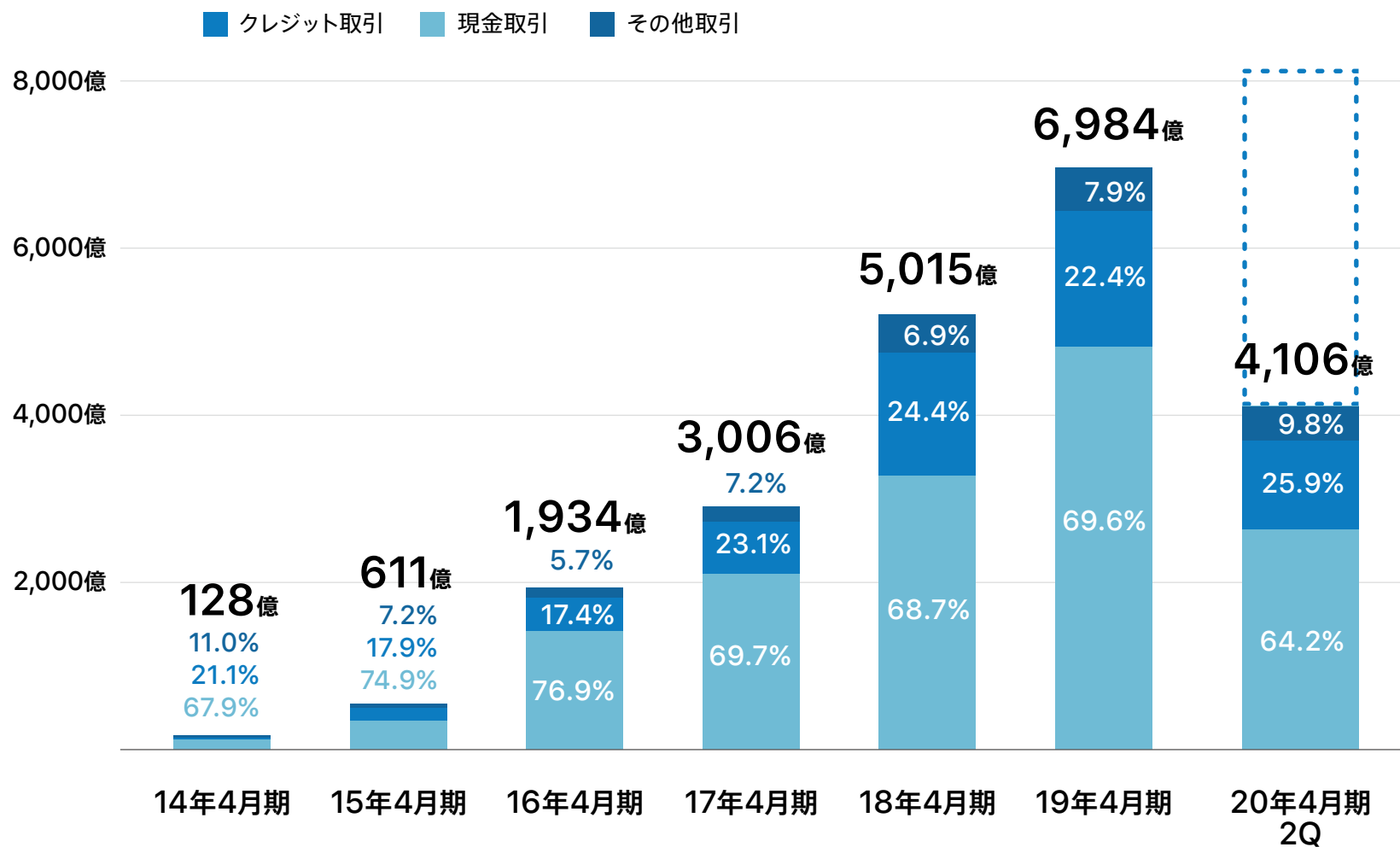


総括

軽減税率制度による特需は業績に良い影響を与えた。今後、軽減税率制度の影響による特需は無くなるが、軽減税率制度がモバイルPOSの認知に多大な影響を及ぼす結果となり、クラウド化の潮流と合わせて、需要は依然として継続するものと考え。

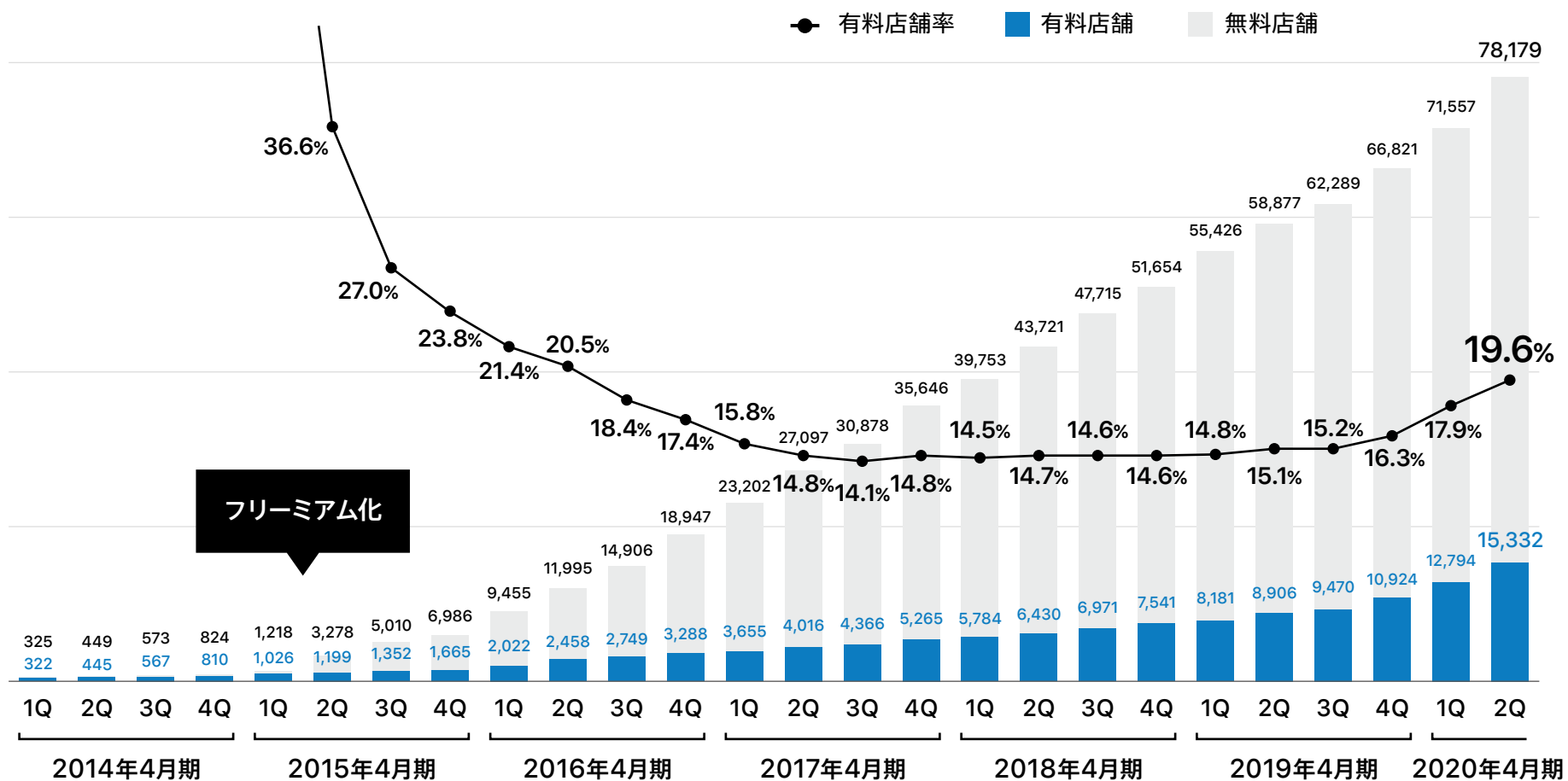
取扱金額の推移

2020年4月期2Qの取扱金額は前年同期比157.4%、年間取扱金額1兆円も近い



店舗数と有料店舗数の四半期推移

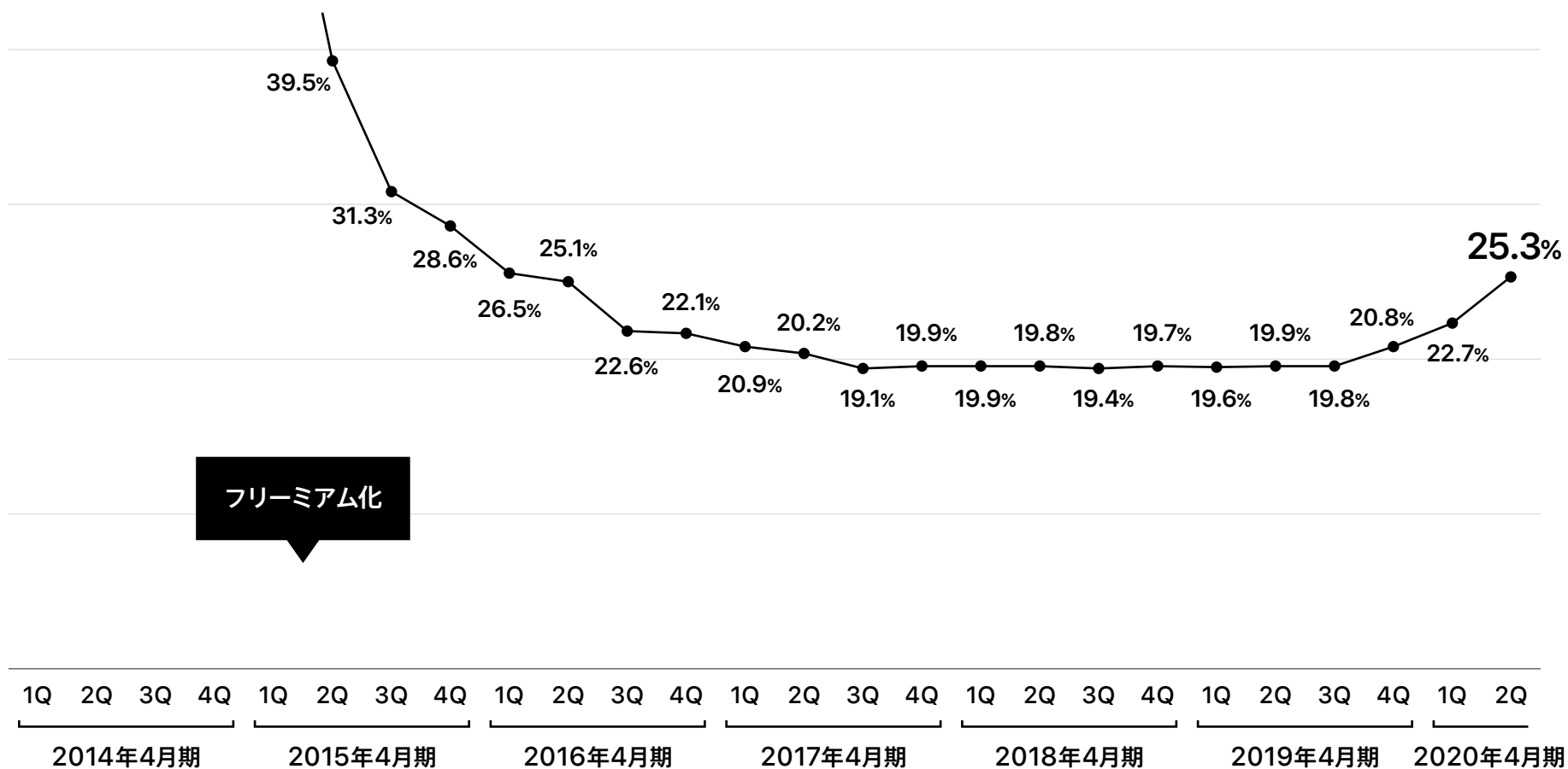
軽減税率特需による有料店舗の増加により、有料店舗率が19.6%まで上昇



※2015年4月期にフリーミアム化を実施したことにより無料店舗が増加

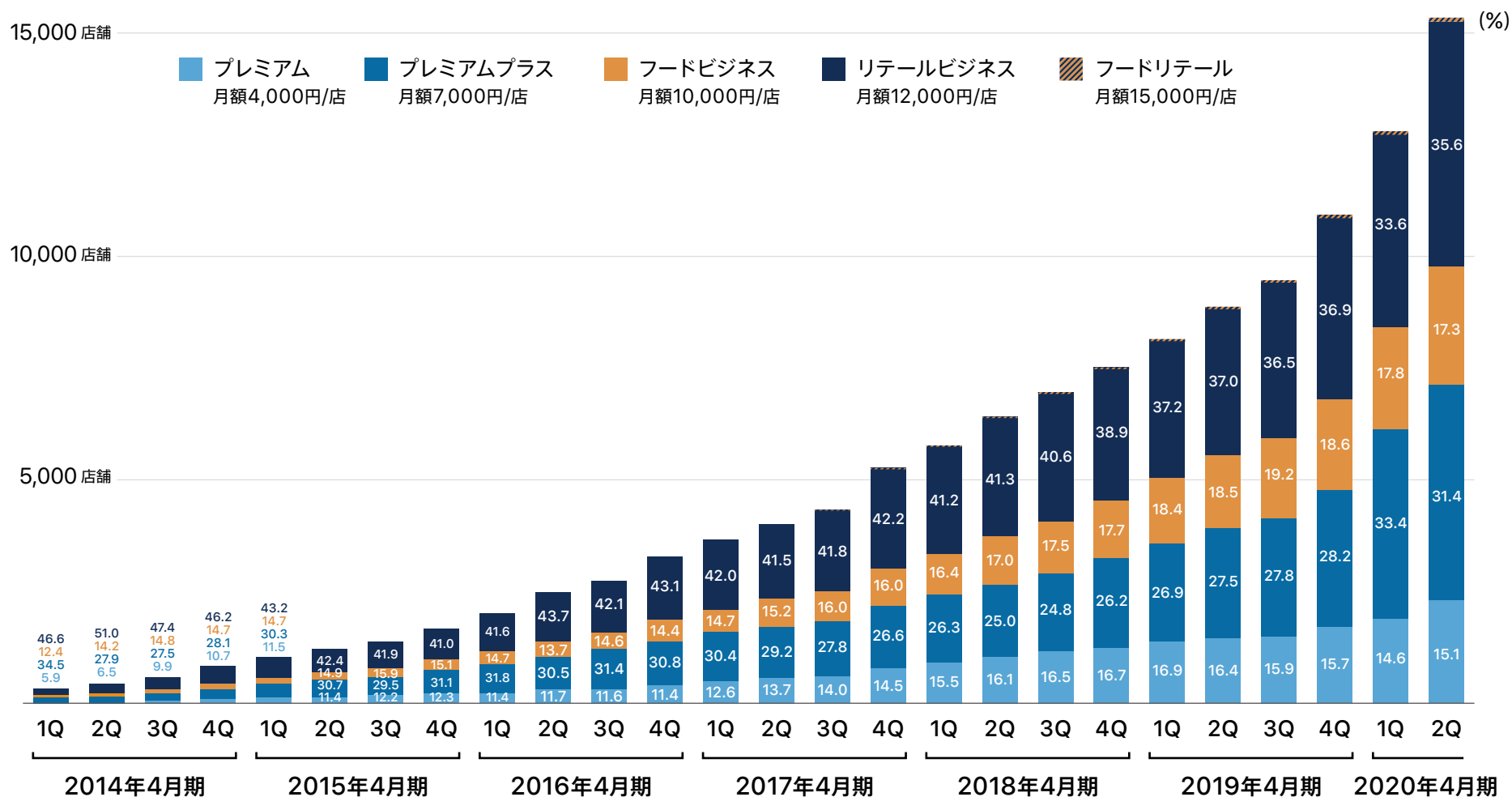
店舗数とアクティブ率

有料店舗の増加に伴い、アクティブ店舗率も25.3%に上昇



アクティブ店舗：当月の取引が存在する店舗

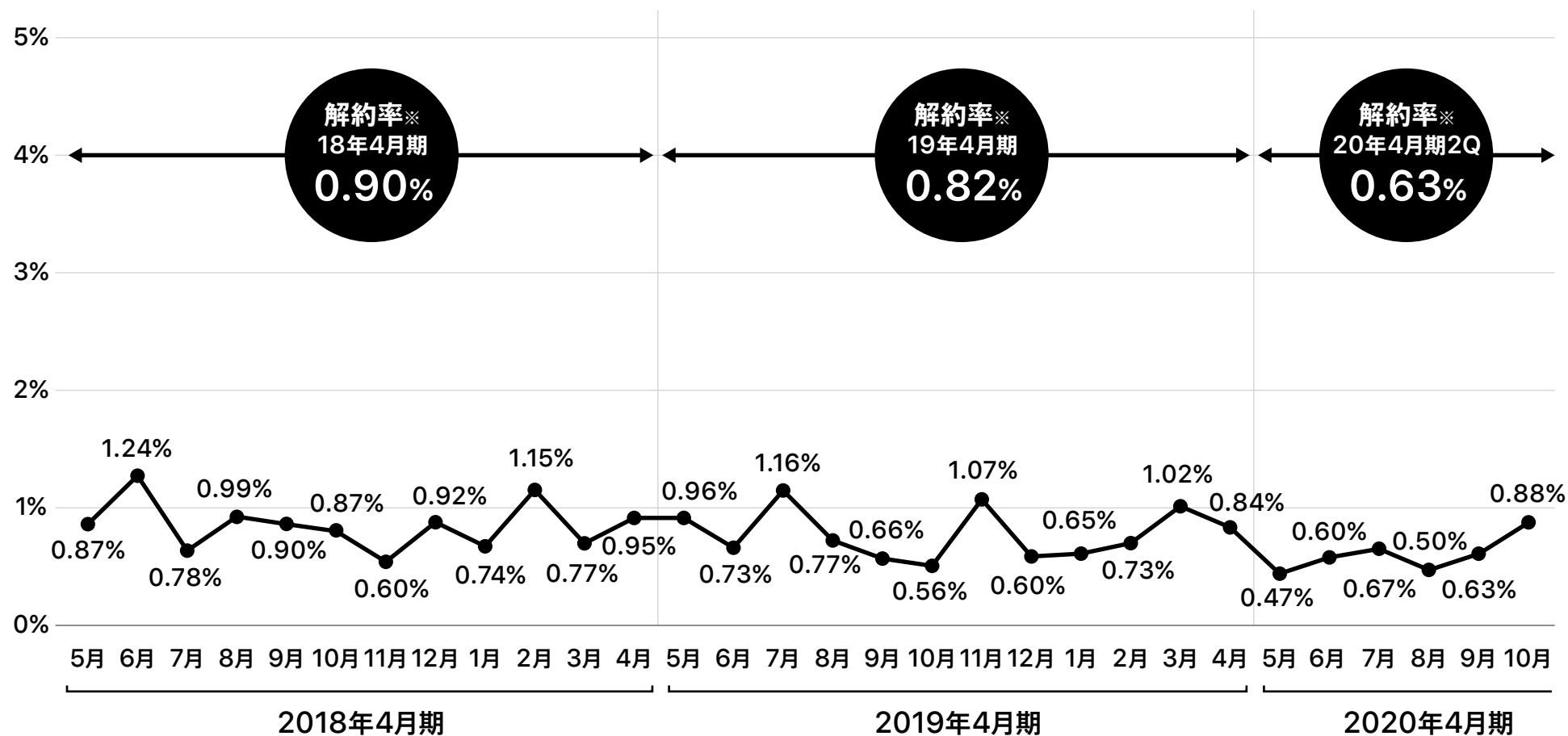
小売業向けリテールビジネスプランが人気。全てのプランで純増



※スタンダードプランをご利用の場合であっても、オプションによって有料になっている場合がありますが、有料プランには含んでいません。

解約率の推移

低い解約率がサービス品質を証明。2020年4月期2Q平均解約率は過去最低水準の0.63%を記録



※解約率=MRRチャーンレート (既存顧客の月額利用料に占める解約により減少した月額利用料の割合)

中小企業向け業務システムへの取り組み

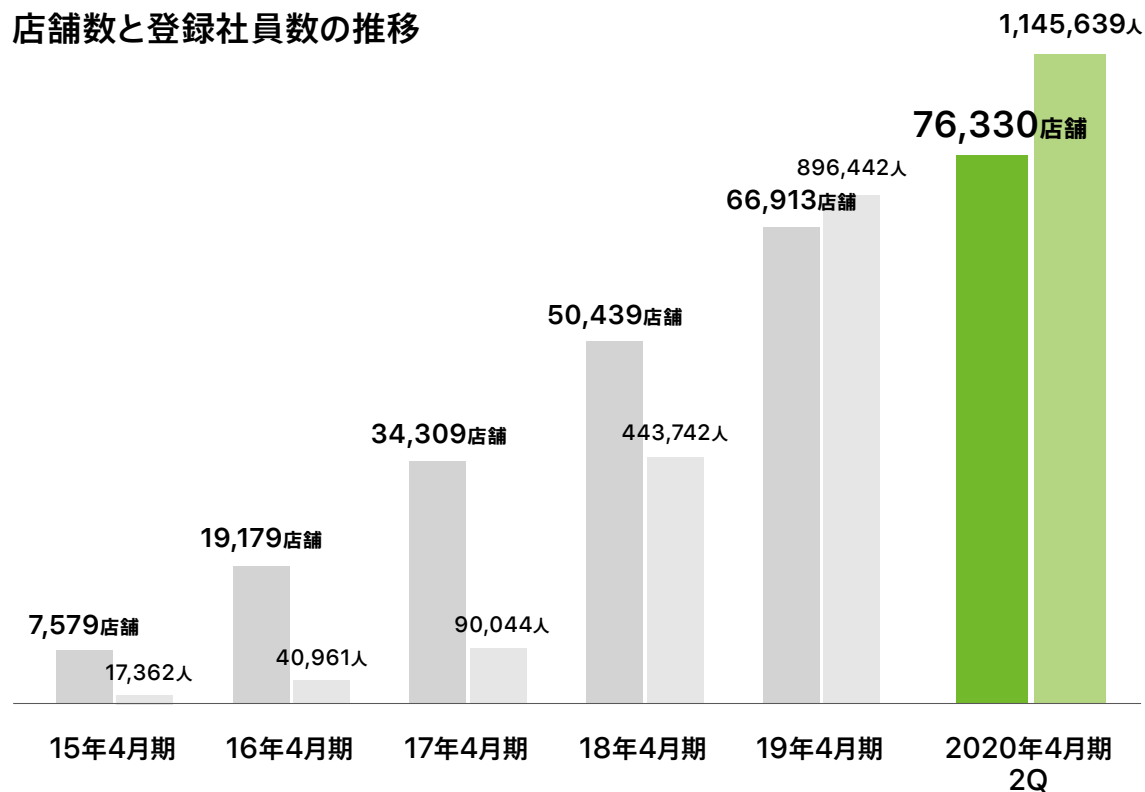
働き方改革などの社会的背景により、HR系サービス「スマレジ・タイムカード」が好調
顧客単価の向上だけでなく、新規顧客の開拓にも貢献



勤怠管理の枠を超えた、 これからの勤怠管理サービス

簡単に給与計算ができる勤怠管理システム。
休暇管理、シフト管理、日報、プロジェクト
管理などの機能をはじめ、各種保険や税計
算、複雑な賃金体系にも対応しています。

店舗数と登録社員数の推移



2020年4月期 業績の見通し

BUSINESS PLAN FOR FY2020

- 消費税増税に伴う軽減税率への対応による駆け込み需要が当初予想を上回ったことから、9月には**第2四半期及び通期の業績を上方修正**
- 売上高は、通期30億80百万円 (**前期比155.9%**)、営業利益は、通期6億42百万円 (**前期比148.8%**) と高い成長率を見込む
- 通期の計画に対して、2Q時点で売上高進捗率は59.2%、営業利益進捗率は82.1%

2020年4月期 通期業績ハイライト

2020年4月期 業績の見通し

30

軽減税率対策補助金の終了後、機器販売は2Qに比べ減少予想

新規契約獲得により月額利用料の底上げになったことから、継続的な売上増を予想

(百万円)	2019年4月期 (2018年5月-2019年4月)		2020年4月期 (2019年5月-2020年4月)				
	2Q	4Q	2Q		4Q		
	実績	実績	実績	前期比	計画	前期比	進捗率
売上高	875	1,976	1,825	208.6%	3,080	155.9%	59.2%
営業利益	176	431	527	299.1%	642	148.8%	82.1%
経常利益	176	408	527	299.7%	642	157.2%	82.1%
当期純利益	124	293	363	292.8%	440	150.3%	82.5%

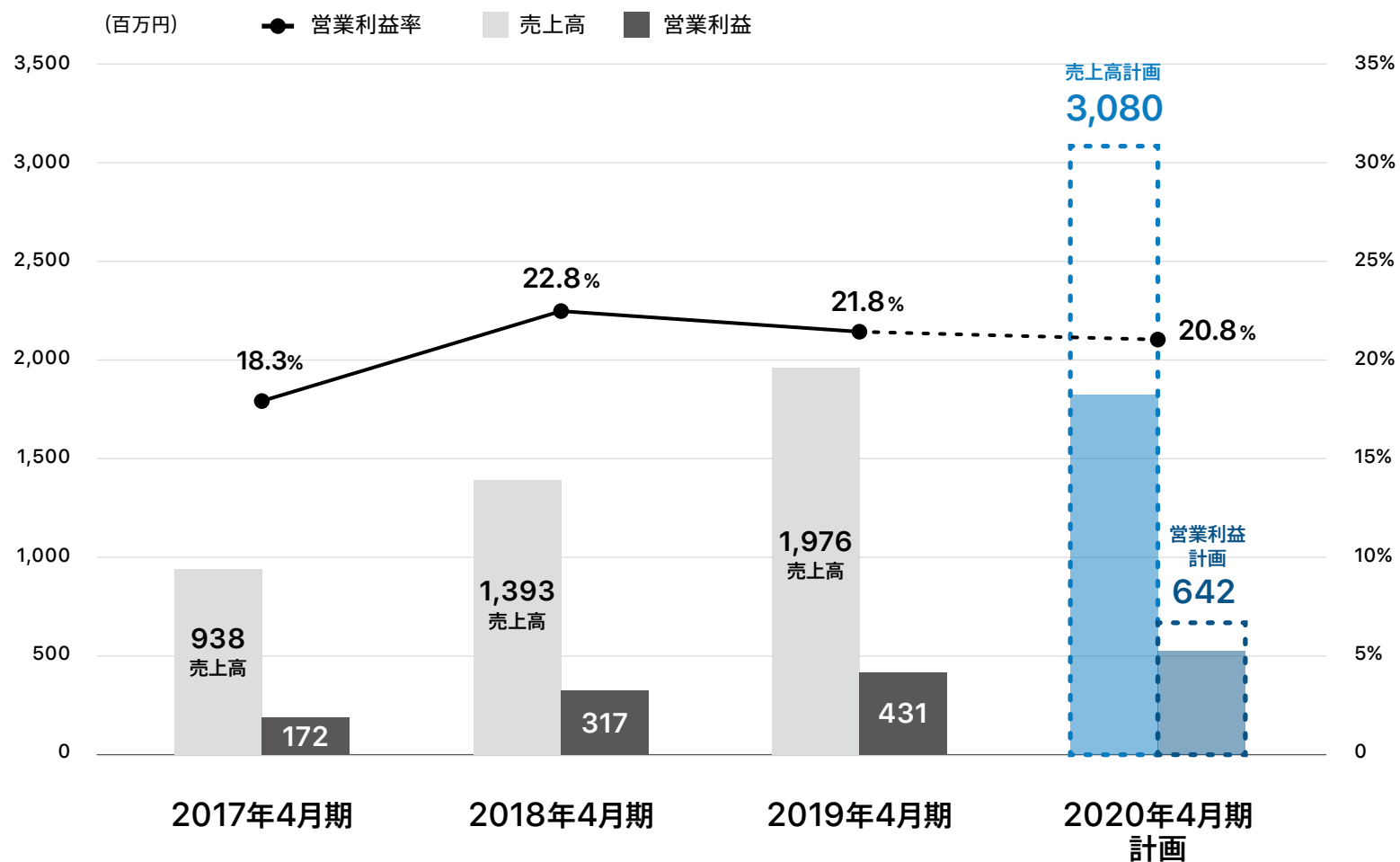
※2019.9.6付けで2020年4月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正を開示いたしました。

売上高・営業利益・営業利益率の推移（計画）

2020年4月期 業績の見通し

31

広告費や採用強化、バージョンアップによるサービス強化等、上場時の調達資金を有効活用
販管費の増加により、営業利益率は一時的に低下

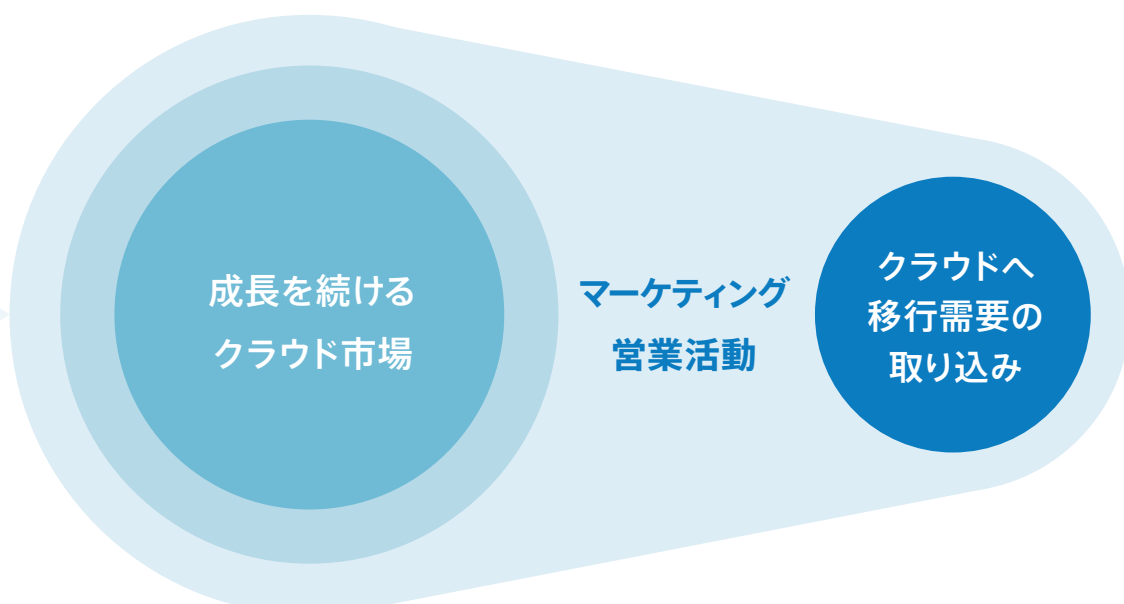
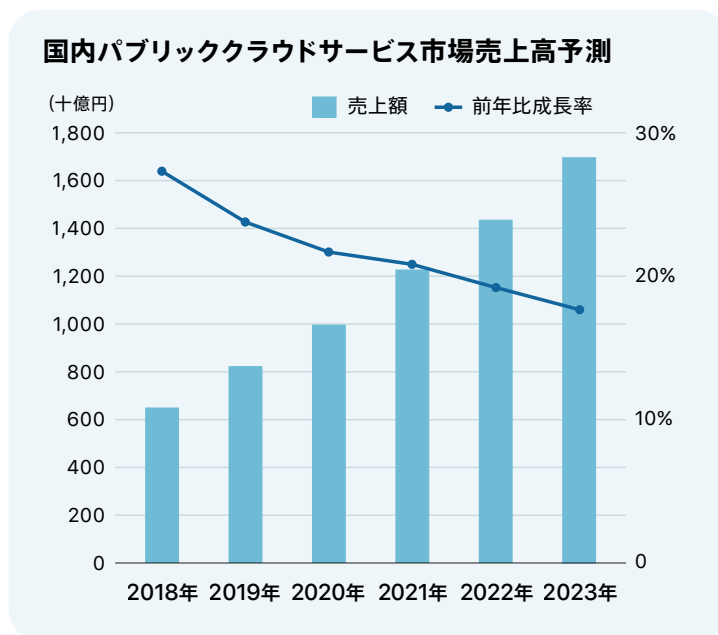


今後の展望

MEDIUM TERM PLAN

SaaS含むパブリッククラウド市場は、今後も継続して成長

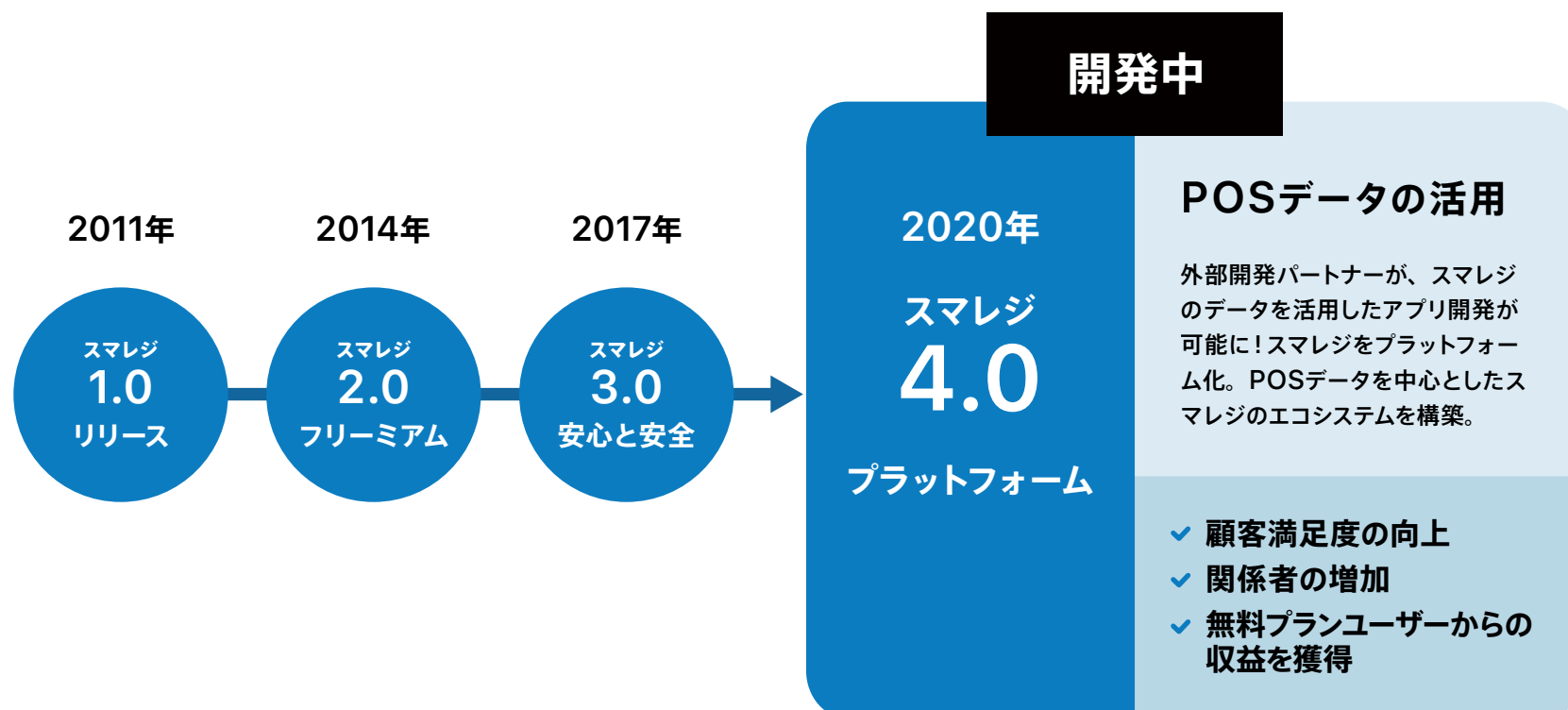
上場による認知や信頼性の向上により、大型案件や軽減税率に関係しない案件数も着実に増加
POSレジのクラウド化を率先し、業界を牽引する



データ参照：国内パブリッククラウドサービス市場予測、2018年～2023年 (IDC Japan, 3/2019)

スマレジのバージョンアップ

顧客満足度の向上と陳腐化防止により定期的な大幅アップデートを実施
蓄積される販売データ (POSデータ) を中心にスマレジをプラットフォーム化



本資料に記載されている事業計画、業績予測などの将来の見通しに関しては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断したものです。これら将来の見通しは、市況や政治・経済状況など様々な不確実性を含むものであり、実際の業績とは異なる場合があります。

本資料は、当社株式の購入や売却等の投資勧誘を目的とするものではありません。投資は、ご自身の判断のもと、ご自身の責任において行なっていただくようお願いいたします。

FY2020 2Q 2019.5 ~ 2019.10

2020年4月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社スマレジ